

## 右手首の脱力と、各指の独立した動きのための訓練-2

\* 譜例-5-aに馴れ、手首の脱ができてきたら、以下の要領で繰り返します。(注意書き運指は省略)

譜例-5-b

2pos. *mf* *pp sempre* 3pos. *simile*

左指離す。  
次のPos.を押さえる

4pos. 5pos. 6pos. 7pos. 6pos. 5pos. 4pos. 3pos.

\* 下声部の休符は任意の長さで、拍子(テンポ)を感じる必要はありません。  
指の離弦時も押弦時もゆったりした動きを保つ。

譜例-5-c

*mf* *pp sempre* *simile*

\* 次第に低音の響きが止まる時間を短くしていく。

譜例-5-d

\* a,m,iを弾き続けながら任意のタイミングで②③に触れていたP指を離し、a,m,iをアポヤンド奏法に変える。  
アライレと変わらない、音量と速さを目指す。